

## みやぎGPNニュース



今回の  
内容

- 深堀：自然共生サイトについて
- 仙台市：杜の都ネイチャーポジティブセンターについて
- 2050カーボンニュートラルに向けた動き
- みやぎコストプロジェクトについて ● お知らせ

2025.12

Vol.35

## ● 深堀：自然共生サイトについて

環境省では、令和5年度から「民間の取組等によって生物多様性の保全が図られている区域」を「自然共生サイト」に認定してきました。令和7年4月から、自然共生サイトを法制化した新法・地域生物多様性増進法が施行され、令和5、6年度に認定した自然共生サイトに加えて、令和7年度からは、地域生物多様性増進法に基づき認定された実施計画の実施区域も「自然共生サイト」となります。

## ● 「自然共生サイト」制度と「地域生物多様性増進法」制度

## ◆ 自然共生サイト制度 認定者：環境大臣

対象範囲：現状で生物多様性が豊かな区域（生物多様性の価値基準に合致する区域）

認定対象：民間等の取組によって生物多様性の保全が図られている区域

OECM：認定した区域は、保護地域との重複を除きOECMとして登録。

## ◆ 地域生物多様性増進法 認定者：環境大臣・農林水産大臣・国土交通大臣

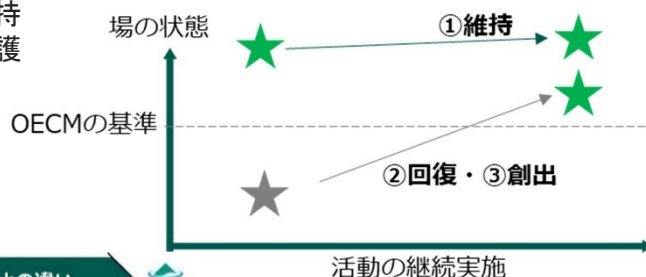
対象範囲：①現状で豊かな生物多様性を維持する活動 ②生物多様性を回復する活動

③生物多様性を創出する活動

認定対象：特定の場所に紐付いた民間等による生物多様性を増進する活動実施計画

OECM：既に生物多様性が豊かな場所で生物多様性を維持する活動として認定を受けた場合は、その活動場所を、保護地域との重複を除きOECMとして登録。

生物多様性を回復・創出する活動として認定を受けた場合は、認定後における回復・創出活動の継続の結果、生物多様性の状態が豊かになった時点（生物多様性の価値基準に合致する時点）でOECMとして登録。



「自然共生サイト」制度と「地域生物多様性増進法」制度との違い

※生物多様性の価値を9つに分類し評価。＜価値1 重要地域＞＜価値2 原生的な生態系＞＜価値3 里地里山＞＜価値4 生態系サービスを提供する健全な生態系＞＜価値5 伝統文化＞＜価値6 希少種＞＜価値7 限定種＞＜価値8 生活史＞＜価値9 緩衝、連続・連結性＞

## ● 仙台市：杜の都ネイチャーポジティブセンター

仙台市は、杜の都・仙台の豊かな自然環境と都市機能の調和を維持・向上させるとともに、杜の恵みの更なる活用も視野に、多様な主体の協働によりネイチャーポジティブ実現を促進する組織を設立しました。

◆杜の都ネイチャーポジティブセンター（通称）の概要について 設立年月日：令和7年11月6日

名称：仙台市地域生物多様性増進活動支援センター 事務局：仙台市環境共生課

目的：市民、事業者、活動団体、学術機関、金融、行政その他の多様な主体の協働により、杜の都・仙台のネイチャーポジティブ実現を目指すとともに、生態系サービスの継続的享受や地域課題の解決、先進事例の発信や水平展開による生物多様性保全の取り組み促進に貢献すること

◆杜の都ネイチャーポジティブセンターの会員募集について

当会では、会員間のマッチングや会員活動の情報発信、イベント開催、自然共生サイト認定支援、会員への定期的な情報提供などを行っていく予定であり、会員となる団体・個人を募集しています。

募集会員：杜の都ネイチャーポジティブセンターの目的に賛同する団体・個人

登録方法：せんだいオンライン申請サービスから電子申込 登録料：無料

活動支援：地域生物多様性増進法に基づく自然共生サイト認定申請を支援します。

ネイチャーポジティブを知りたい・取り組みを検討したい・製品やサービスに繋がたい企業なども募集中です。

◆杜の都ネイチャーポジティブフォーラム開催 令和8年1月22日（木）13:30～16:30

学び・つながることでネイチャーポジティブの新たな一歩を目指すフォーラムを開催予定です（参加費無料）

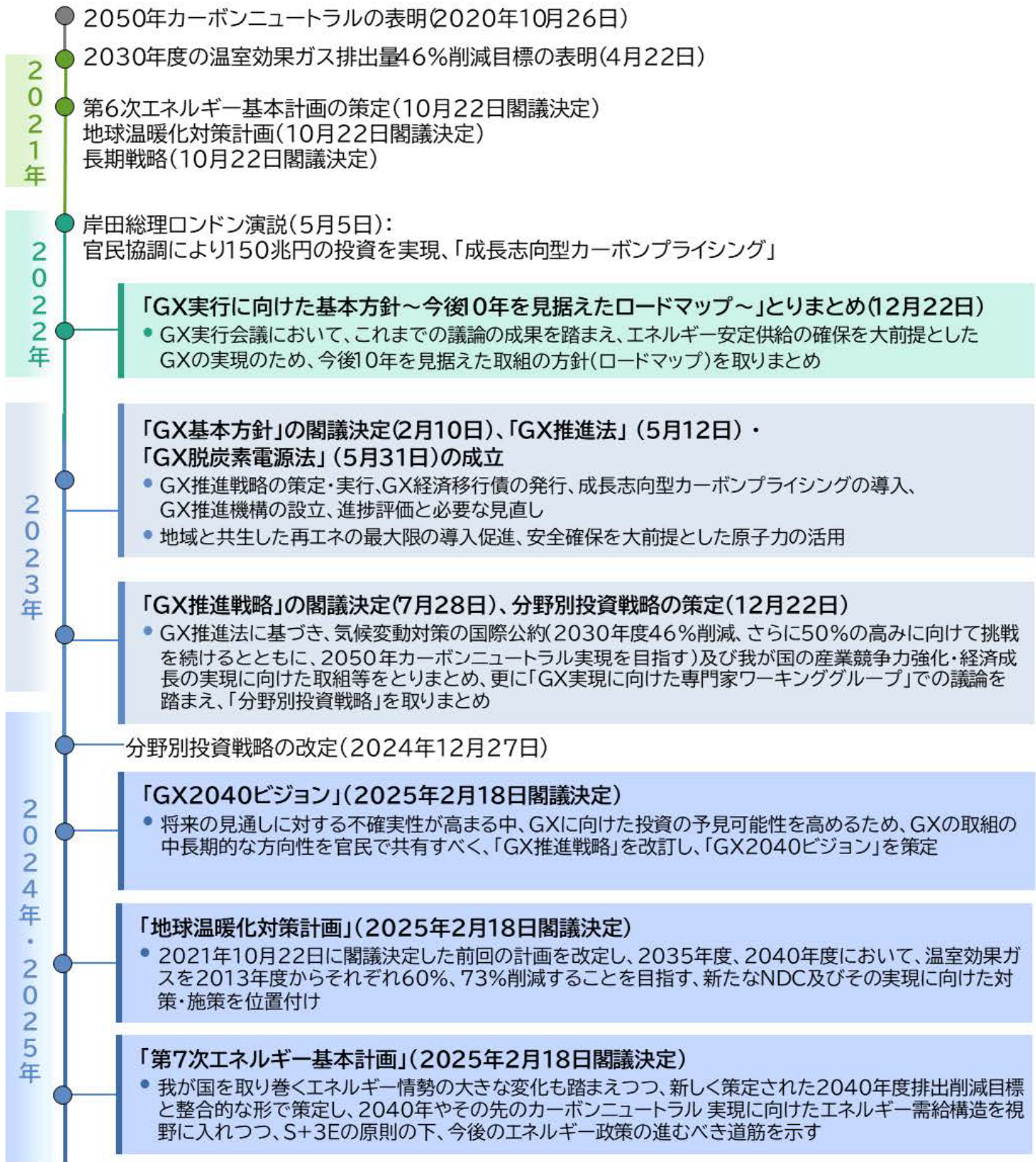
## ● 宮城県：相談窓口 自然保護課 022-211-2672

自然共生サイトの申請や保全活動など県内の生物多様性に関わる質問があればお気軽にお問合せ下さい。



詳しくは  
こちら

## ●最新動向:2050年カーボンニュートラル実現に向けた各種戦略の流れ



2050カーボンニュートラル実現に向けて、2020年10月26日の表明から現在までの国家戦略を振り返ってみました。産業革命以来、石油・石炭・天然ガスに大きく依存する化石エネルギー中心の産業構造・社会構造をクリーンエネルギー中心へ転換する、「グリーントランスフォーメーション」「GX(Green Transformation)」により、産業・エネルギー政策の大転換が必要とされています。しかし我が国のエネルギー自給率は2022年度でわずか12.6%(推定で2023年15.2%)に留まっています。GX実現に向けては、排出量の多い部門から順に取り組んでいく必要があります。エネルギー転換部門(発電等)に始まり、電気・熱配分後の排出量の多くを占める鉄・化学等の産業部門や、国民の暮らしに深く関連する部門(家庭、運輸、商業・教育施設等の業務部門)など様々なセクターで排出削減の取組が必要不可欠となっています。



## ●クライメート・トランジション・ボンド 6つの資金使途分類

- 1.エネルギー効率 ● 省エネ機器の普及 ● 省エネ住宅・建築物の新築や省エネ改修に対する支援  
● 省エネ性能の高い半導体、光電融合技術等の開発・投資促進 ● 蓄電池・部素材の製造工場への投資
- 2.再生可能エネルギー  
● 浮体式洋上風力 ● 次世代型太陽電池(ペロブスカイト) ● 脱炭素に資する都市・地域づくり
- 3.低炭素・脱炭素エネルギー ● 新たな安全メカニズムを組み込んだ次世代革新炉  
● ゼロエミッション火力への推進 ● 海底直流送電等の整備
- 4.クリーンな運輸 ● 次世代自動車の車両導入の支援  
● 2030年代までの次世代航空機の実証機開発、● 脱炭素に資する都市・まちづくり
- 5.環境適応商品、環境に配慮した生産技術及びプロセス ● 水素還元製鉄等の革新的技術の開発・導入  
● 炭素循環型生産体制への転換 ● サプライチェーンの国内外での構築 ● 余剰再生可能エネルギーからの水素製造・利用双方への研究開発・導入支援 ● カーボンリサイクル燃料に関する研究開発支援
- 6.生物自然資源及び土地利用に係る持続可能な管理、サーキュラーエコノミー ● 農林漁業における脱炭素化  
● プラスチック、金属、持続可能な航空燃料(SAF)等の資源循環加速のための投資

## ●地域生物資源カーボンサーキュラーエコノミー

地域生物資源カーボンサーキュラーエコノミーは、地域の資源を効率的に循環させ、環境負荷を低減し、持続可能な社会の実現を目指す取り組みです。具体的には、地域の資源を活用したリユース、リサイクル、リペア、メンテナンス、シェアリング、サブスクリプションなどのシステムを構築し、地域の循環資源や再生可能資源を新たな付加価値や雇用の創出に活用します。また、地域の資源循環や再生可能資源を活用することで、廃棄物の処理量を減らし、歳出削減にも貢献することが期待されています。

＜下図は、宮城大学URL: <https://www.myu.ac.jp/research/news/2022/6236/>より＞

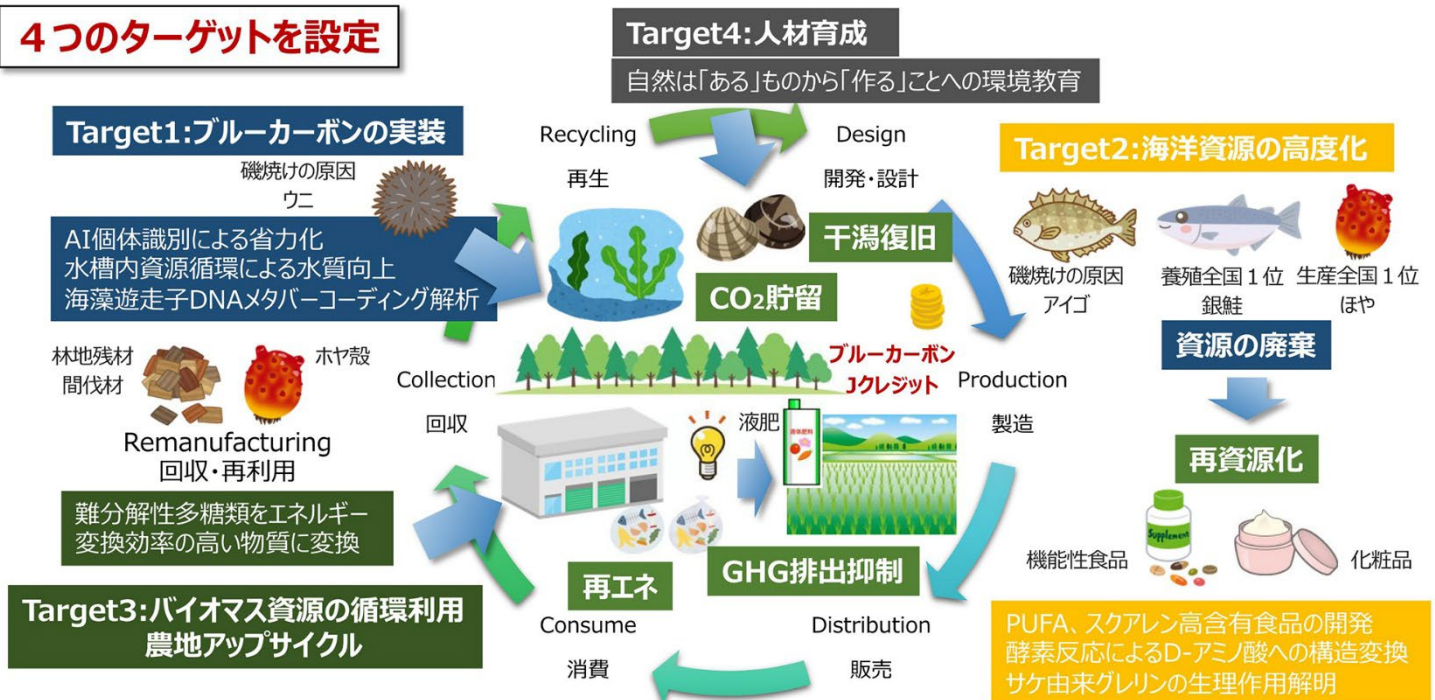
### 地域生物資源カーボン・サーキュラー・エコノミーのミッション

- ①CO<sub>2</sub>貯留（ブルーカーボン、農地還元）
- ②CO<sub>2</sub>等排出抑制（木質バイオマス、農地アップサイクル）
- ③廃棄エネルギーの削減と再資源化（水産未利用資源）
- ④新たな資源化・産業（ウニ陸上養殖、機能性食品、化粧品）
- ⑤レジリエントアントレプレナー人材育成

### 対応する研究課題

- ①ウニ陸上養殖システムの実装と遊走子DNAメタバーコーディング
- ②海洋未利用資源を用いた機能性素材の創出
- ③温室効果ガスの排出を抑制するバイオマスシステムの確立
- ④干潟の利活用に資するアサリ幼生のAI同定技術の確立と幼生輸送機構の解明

## 4つのターゲットを設定



地域の生物資源の有効活用という視点で見ていくと、Target1.ブルーカーボンの実装、Target2.海洋資源の高度化(廃棄エネルギーの削減と新たな資源化)、Target3.バイオマスの循環利用、Target4.人材育成。この4つがあげられます。グリーン購入ネットワークは、SDGs採択当初から「つくる責任・つかう責任・捨てる責任」という考え方でモノやサービスを捉えてきました。脱炭素、資源循環、生物多様性の3つが持続可能な社会づくりのボトムとなります。今回テーマとしているネイチャーポジティブは、自然再考によりこれまでのものづくりやライフスタイルを見直し、自然共生を実現していく持続可能な社会づくりに繋がっていくのだと思います。

## ●宮城県：緑と青。環境を保全しCO2削減に貢献するプロジェクト

# MIYAGI Coast Project

全世界の課題である地球温暖化対策。そしてSDGsの実現。

誰も置き去りにせず、持続可能な社会をつくる。社会的意識の変換点に、今、私たちは暮らしています。傷ついた沿岸の森を再生し、人々の暮らしを守りながら、カーボン・ニュートラルを目指す。みやぎだからできること。このプロジェクトは、まだまだ人々の協力が必要なみやぎの沿岸で持続可能な社会の実現を、一歩ずつ進めていく活動です。

みやぎグリーンコーストプロジェクトは、東日本大震災による津波で壊滅的な被害を受けた海岸防災林の再生と沿岸地域の活性化を目的としており、震災後、海岸防災林の植栽等に御協力いただいた企業・団体の皆さま、関係市町及び県とで、令和3年3月に協議会を設立して、取り組みをスタートさせました。震災から13年が経過しました。海岸防災林の植栽は完了しましたが、植栽された苗木が成長し、海岸防災林としての機能を十分に発揮するには、今後も適切に保育管理を行う必要があります。これから30年、50年と息の長い取り組みが必要になることから、もっと多くの方に関心を持っていただき、取り組みに参加していただけるよう全力で取り組んでまいります。

ブルーカーボンは、水産業が持つ多面的機能のひとつとして、藻場や海藻が地球温暖化の主要因である二酸化炭素を吸収・隔離するものです。近年はブルーカーボンによる温暖化対策がカーボンニュートラルに繋がるものとして、世界的にも注目されております。このような趨勢の中、宮城県ブルーカーボン協議会は令和4年1月20日に設立されました。当協議会では、本県沿岸域の藻場造成や海藻養殖によるブルーカーボンを評価いたします。また、本県漁業・養殖業の活動に伴い発生する二酸化炭素を定量し、排出削減に向けた取組を展開することで、環境配慮型水産業への機運を醸成し、本県水産業のカーボンニュートラルや持続可能性に寄与することをねらいとしております。



## ●イベント情報

### ◆2025年度グリーン購入セミナーinみやぎ

日 時 令和8年1月9日(金) 13:25～16:50 会 場 みやぎNPOプラザ（ハイブリッド方式）

①「カーボンニュートラル達成に向けたGXの推進と現状、Jクレジットの活用について」②「自然共生サイト」の取組を通じたネイチャーポジティブの実現③「みやぎ生協のカーボンニュートラル戦略」④「地域をつなぐいわき市森林組合の森林クレジットの取組」⑤「ソーラーシェアリングは主力時代へ」

### ◆グリーン購入ネットワーク30周年記念シンポジウム

日 時：2026年2月10日(火) 14:00～16:30 会 場：JPタワーホール&カンファレンス ホール1・2

基調講演「一歩進んだサステナビリティの実現へ ～変容する課題、変革する行動～」

GPNの歩み・パネルディスカッション

### ◆環境フォーラムせんだい2026

日 時 令和8年3月14日(土)に、環境フォーラムせんだい2026を仙台国際センター展示棟で開催します。

環境フォーラムせんだいは、楽しみながら環境について学べるイベントです。杜の都の良好な環境を保全し未来へ継承することが防災にもつながる、そんな取り組みをのぞいてみませんか？環境にやさしい行動をはじめていただくきっかけになるような、楽しく学べるクイズやワークショップを多数ご用意してお待ちしております。



■情報発信（毎週更新） えしかるちゃんと一緒に考えよう！

👉こちらからどうぞ

■発行・編集 みやぎグリーン購入ネットワーク事務局

〒981-3121 仙台市泉区上谷刈三丁目10-6 TEL.022-218-5451 FAX.022-375-7797

Email: [mi-green@miyagigpn.net](mailto:mi-green@miyagigpn.net) ホームページ: <https://www.miyagigpn.net/>

■2024年度より、会員の皆様の情報を広く伝えていくために「みやぎGPNメール通信」を発行しています。新製品、新サービスに加えイベントなどの情報をお寄せいただき、オールみやぎで持続可能な社会実現にむけ進んで参りましょう。

